

NEWSLETTER

No. 17

岐阜大学国際交流室 1993年7月24日

●目次

新たな飛躍に向けて 国際交流室長 堀内孝次	1
国際交流室の活動紹介	2
【特集】国際交流は身近なところから 国際交流室 学生担当主任 中谷 剛	4
国際交流室とわたし 後藤 桂	7
国際交流のための奨学寄附金について	8
お知らせ・前期日本語クラス時間割表・編集後記	8

新たな飛躍に向けて

国際交流室長 堀内孝次

先頃、町の書店で全国大学案内を見た。岐阜大学の頁を開くと「国際交流が活発である」とあった。恐らく、好評を博している協定大学間の学生交流や学内での「国際理解教育の集い」等の交流事業を指しているのだろう。本学の実質的な国際交流を担っている国際交流室の活動も設立後10年目になるが、少々嬉しい気分になった。

今年も四月に各学部から室員として新たなメンバーが加わった。室員は毎年、半数交代制である。この体制は国際交流という対外的対応と国際的感覚が必要とされる室員活動の特殊性のため、専任教官のいない小規模国立大学としての本学が成し得る苦肉の策でもある。それでも新メンバー

の若い先生達のエネルギーで責任感ある動きはこれまで通り今後の交流室の発展に大いに寄与してくれるはずである。

今年の事業方針の特色は二つある。その一つは協定



大学からの短期夏期留学生の受入れ人数をこれまでの5～7人から一挙に18人に拡大した点である。初めての試みであるが、今後交流事業の進展に伴い必然的に要求される課題ではある。この計画が可能となった背景には関係教官の努力に加えて、事務官の多大な協力があつた。もう一つは現在本学に在学している190人に及ぶ留学生とこれまでに帰国していった留学生達を対象にした国際交流ネットワーク作りである。これにより留学生全体に対する交流事業の実効性を高めると同時に、多面的な交流企画の可能性が期待される。

こういった交流室の活動状況は各学部国際交流委員会の委員を兼ねている室員達により学部に持ち帰られ、結果として全学的に周知されることになる。にもかかわらず平成四年度岐阜大学要覧の大学組織図の中に国際交流室の名が無いのはなぜか。われわれ室員の

目からは当然のこと、交流室から多大な恩恵を得ている留学生や国際交流に関心を持っている岐大生にしてみれば不思議に思えるだろう。発足当時と比べて飛躍的に発展してきた交流室を今日の現状に見合うように見直すため、現在、国際交流室の在り方が全学の国際交流委員会で検討されている。そろそろ学内措置として国際交流室が認知されてもいいのではないだろうか。それには全学の国際交流委員会での決定事項が、円滑に学長及び評議会に取り上げられ、審議ないし了承されるような組織作りが必要となろう。献身的に交流事業に取り組んできた各学部教官や事務官の願いとして、また年々増える留学生達や海外との交流発展を望む多くの岐大生のためにも一日も早くこの点が改善されることを強く望むものである。

◇◇◇ 国際交流室の活動紹介 ◇◇◇

国際交流室には、留学生の教育に関することから始めとしていろいろな仕事があり、全室員が分担しつつ相互に協力してそれらの仕事にあたっています。次に主な活動のいくつかを、担当する室員が紹介いたします。

●日本語教育●

交流室での日本語教育は、留学生の為の課外補講の一貫として行われ、毎年春（4月）と秋（10月）に開始され、一年間で終了するように設定されている。前半6カ月は、初級者（ほとんど日本語を解さない留学生？）を対象に9コマ/週×15週×90分の授業が行われ、後半6カ月間は、前半の授業を終了したものあるいはそれと同等の日本語能力を有するものを対象に、6コマ/週×15週×90分の授業が行われる。この他に、医学部において、週2コマずつの授業が、初級者の為に行われている。また、柳戸地区の留学生で、先に述べたいわば“集中的”（intensive）な日本語授業を各専門の講義研究の都合で取ることが不可能な留学生の為に、各レベル週2コマずつの授業が行われている。

これらの授業は、5人の非常勤講師によって行われている。各講師の授業は、週数回のミーティングによって、有機的なつながりをもちながら行われ、現段階ではoptimalな成果を上げている。

なお、日本語教育のガイダンスは、4月上旬、10月上旬に行っております。詳細については、留学生指導

の各先生方に御案内いたしますので、よろしくお取り計らいいただきたいと思います。

（廣田則夫）

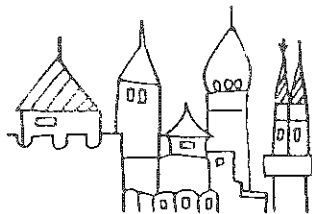


日本語授業風景

●ホームステイ●

国際交流室では留学生と地域の人達が親睦を計り、より深くお互いの国の文化や生活を知る為に、毎年、学外及び学内の方々にホームステイの依頼をしています。現在の所、66のご家族に登録をさせていただいています。それをもとに、岐阜大学で学ぶ留学生からホームステイの希望があれば、その都度、登録していただいているご家族に受け入れのお願いをしています。それと並行して毎年開催されるサマースクールでは、参加する短期留学生の為に、カリキュラムの中に2日から1週間の予定でホームステイを組み入れています。この企画は短期留学という限られた時間の中で日本人と触れ合い、日本をより深く知る切っ掛けとなっています。これからもホームステイを通して、お互いの世界を広げて行く努力をして行きたいと思っています。尚、岐阜大学では今後、留学生が増加してゆくことが考えられます。その為に、より多くの方々にホームステイの受け入れをお願いして行きたいと考えていますので、ご協力していただける方は是非、国際交流室まで御一報下さい。

(佐藤昌宏)



●医学部関係●

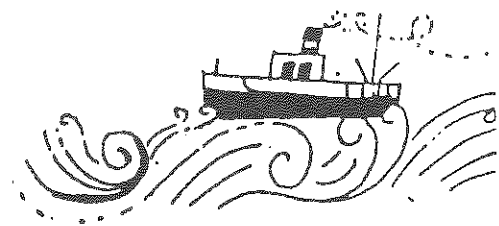
医学部は現在、他学部のある柳戸地区からは離れた司町にあるため、医学部の人達は柳戸地区で行われている国際交流室の行事を知らなかったり、参加しにくい状況にあります。また、医学部における外国人留学生の大半は各講座で基礎研究や臨床研究を行っている研究者、医師であり、これらの留学生は多くの時間を所属する講座で過ごし、また滞在期間は短いことが多いことから、広範囲な交流活動は思うに任せないのが現状のように思われます。

このような状況の中で、司町地区の留学生のために医学部の図書館分館が開かれている国際交流室主催の日本語クラスは人気があり、忙しい合間をぬって、日本語を習いに、あるいは同じような境遇の留学生を求めて毎回10人近い人が集まってきます。しかし、留

生の日本語クラスに参加する時期や日本語の能力がまちまちであることを考えると、丁寧に留学生を教えてくださいと先生のご努力には感謝の念が絶えません。

現在、外国人留学生との交流は全学レベルで行われていますが、岐阜大学を訪れる留学生の年々の増加と各学部の持つ特殊事情を思うと、各学部が独自に作る国際交流も考える時期に来ているのかもしれない。

(加藤直樹)



●会計・渉外●

今年で2年目の室員です。渉外は今年からの担当なので、会計担当者として主に述べさせていただきます。私の役割は、前年度の決算書と当該年度の「国際交流に係る予算書」なるものを各担当者の御希望をまとめて作成することにあります。又、そのミニチュア版として、サマースクール用のものも作らねばなりません。これは今年度から独立採算制をとっています。これらを作成する為に必要な資料作りのほとんどは有能な事務系職員の人達に信頼をもって行っていていただきます。この国際交流に係る予算書は、現在のところ、室員会議で原案をまとめて、上部組織である本学国際交流委員会の議を経て作られていきます。このことは、現在までに、如何に交流室が本学のほとんどの国際交流に関する実務を担ってきたかを物語っており、非常にユニークな予算書作りのプロセスだと感じています。さて、会計担当者はこの様な役割をもっているわけですが、他の担当者がその役割を担っている時は、直接的な仕事はあまり無いという点が、他の担当と異なった点であります。この1年間を振り返ってみましてもその通りでした。しかし、私個人としては大変有益な担当だったと思っています。それは、決算書、予算書の原案をまとめることによって、交流室や交流に関する事業内容がほとんど理解できるようになるからです。又、新しい事業に関しても御担当の方と一緒に考え、討論することができました。このような経験は、室員の任が解かれた後も、私自身の国際交流を行う上で生

かされていくのではないかと考えています。

ダウンサイジングが世の風潮である今、小さくなり過ぎず、適度な大きさに事業規模を保つ為には、ますます会計担当の役割は大切なものになっていくのではないかと、我が身を反省しながら思うのです。

(鈴木文昭)



●国際理解教育●

国際理解教育として、年3回キャンパス内で2・3人の留学生に、スピーチをしてもらっています。

スピーチの内容は、勿論、彼ら自身の母国の文化・歴史・地理などの紹介から、個人的なものに至るまで、意義深いと思われる題材を自由に選択してもらい、発表してもらっています。そして、スピーチの終了後、質問・意見交換などを含め、活発な討論をくり広げることによって、躍動感にみなぎる楽しい時を過ごしています。

1985年にこの催しが始められ、すでに数多くの留学生にスピーチを行ってもらいました。この目的は、外国からの留学生間の理解と同時に、私たちとの理解を深めるためばかりでなく、将来の国際交流を促進するための国際理解を深め育てるためでもあります。そして一番身近にいるキャンパス内の留学生と理解し合い、暖かい友情を育てはぐくむためにも、学生諸君に、このプログラムへの大いなる参加を希望し、一層充実した意義深いものに盛り上げていきたいと思っています。

(瀬戸崎康子)



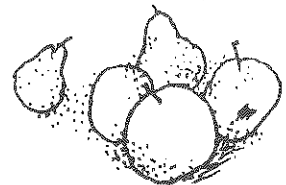
サマースクール歓迎会

●サマースクール●

サマースクールというのは、岐阜大学夏季短期留学プログラムが正式名で、毎年6、7月に外国人留学生を迎えて、日本語教育や日本語事情の講義あるいは研修旅行などを行うものである。これまではスウェーデンのルンド大学の学生だけであったが、今年はアメリカのノーザンケンタッキー大学からも3名の学生が3週間コースに参加する事になっている。最初の5週間が日本語教育に当てられ、残り3週間が日本事情教育に当てられる。両方まとめて8週間コースと称している。昨年は、8週間コースの5人だけであったが、今年はルンドから15人も8週間コースに参加するので、日本語教育や宿の手配だけでもてんこまいである。

日本事情教育としては、仏教・能・環境問題などに関する講義のほか、日本刀をはじめ岐阜の伝統工芸や茶道についての見学や実習、またビール工場・名古屋城等の見学、奈良・京都・高山への研修旅行などを行っている。国際交流室としても大きな行事で、殆ど全ての室員が何らかの形で貢献しているが、学生部の職員の方々にもたいへんお骨折り戴いている。

(中須賀徳行)



●広報●

広報部門は永井と武野が担当し、国際交流室で行う活動報告を中心に、語学教室、サマースクールなどの行事予定および留学生に関する情報を紹介している。広報の主な活動は年3回発行されるNewsletterの編集である。国際交流における問題点や今後の課題を室員から、また留学生や第三者の立場から取り上げている。また、アンケートを通じて、国際交流室の活動がどのように受け入れられたか、フィードバックの役目も果たせるよう編集するつもりである。一般からの投稿も大いに期待しているので、気軽に交流室に問い合わせて頂きたい。

室員としての日も浅く、不慣れなため、配慮に欠ける点や編集ミスなどの不手際があるかと思うが、お許し頂きたい。

(武野明義)

特集 国際交流は身近なところから

外務省は、昨年10月、アジア各国で日本への留学経験者を対象として行った『日本留学生に関する意識調査』の結果を報告しています。ニュースなどで伝えられた内容によると、留学目的については、90%の留学生が「満足している、ある程度は満足している」としている反面、60%が「日本人との交流が乏しかった」という感想を述べております。

交流の形態には多様なものがあると思いますが、学内で可能な交流のかたちには、サークル活動を通じた交流が考えられます。ところで、岐阜大学のサークルはどの程度「国際化」しているのでしょうか。国際交流室では、岐阜大学生がサークル活動によってどの程度外国人留学生との交流があるのかについて、各サークルに協力をお願いし、アンケート調査を行いました。その結果から、

(1)サークルに属している留学生は非常に少ない。

(2)しかし、サークルとしては留学生に自由に参加してもらってもかまわないと思っている。

ということがわかりました。なお、アンケート調査は、平成5年4月～5月に行われ、回答率はサークル全体の38%でした(表1参考)。以下に個別のアンケート項目の調査結果を示します。

表1. 回答率

	体育系サークル	文化系サークル	同好会
サークル数	13 (41%)	9 (35%)	2 (文化系)

*サークル総数は平成5年度学生便覧による

*以下のまとめでは、同好会も文化系サークルに組み込む

【現在サークル員の中に外国人留学生はいますか】

3つの体育系サークルに3名の留学生が所属しています。文化系サークルでは0名でした。回答したサークルに所属している学生の総数は792名、また、岐阜大学に在籍している外国人留学生は177名(平成5年5月1日現在)ですから、3名というのは非常に少ないと言えます。

表2. サークルに属している留学生数

	体育系サークル	文化系サークル
留学生	3	0
サークル員総数	413	379

【留学生の参加する企画やイベントを行ったことがありますか】

特に留学生を意識して行われたものは、体育系で1サークル(2回/年)、文化系で1サークル(6回/年)でした。

【留学生もサークルへ入部できますか】

すべてのサークルが入部できるという回答でしたが、体育系・文化系でそれぞれ3サークルが条件付き入部というものでした。

【「条件付き」の内容は】

『体育系サークル』

- (1)一般の学生と同じように練習ができること。
- (2)他のサークルとかけ持ちしない。
- (3)水・土曜日の厳しい練習には遠慮してもらえないかもしれない。

『文化系サークル』

- (1)日本語がある程度話せること。

【サークル活動に必要な費用は年平均でいくらですか】

図1に年間で平均的なサークル活動に必要な費用を示しました。概して体育系サークルの方が出費は大きいようです。これは、合宿費、試合や大会への参加登録料、用具などに経費がかかるため、経済的に恵まれていない留学生にとっては大きな問題になっているのかもしれませんが、一方、文化系のサークルにも合宿費などが必要な場合もありますが、普段の活動にはそれほどの費用はかからないようです。

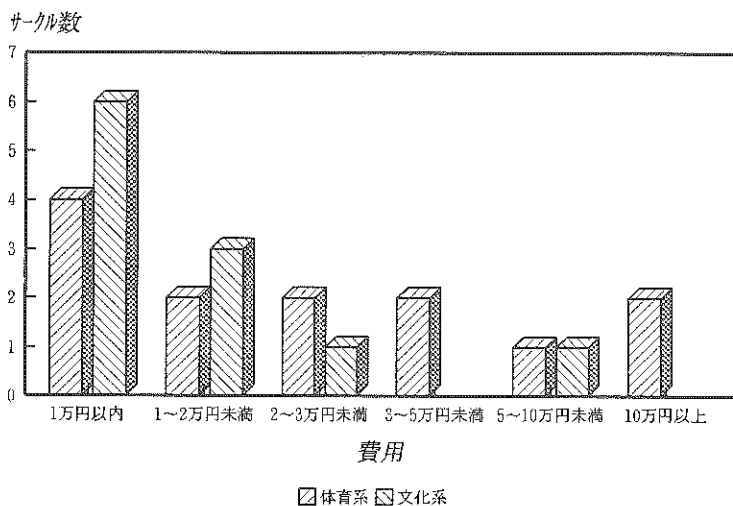


図1. サークル活動に必要な費用

【実際に留学生が入部してきたとき、どんなことが問題になりそうですか】

体育系サークルの54%と文化系サークルの36%が、特に問題がないと回答しました。一方、問題だなどと思うことでは、文化系サークルの大半は、留学生が日本語を話せないとコミュニケーションが問題だと感じており、体育系サークルでは、コミュニケーションの問題もあるが、例えばランニングや基礎トレーニングといったものに日本人学生と同じように参加してもらえないかどうか、週1、2回の練習では技術が身に付かないのではないか、といった真面目な心配が多くを占めました。

留学生との交流という観点からこれらのアンケート調査結果を考えると、留学生に門戸は開いているものの、積極的に働きかけていないサークル像が浮かんできますが、それは必ずしも正しい見方とは言えないだろうと思います。アンケートの回答の中に、《サークル以外でも留学生と接する機会が少ないので、どんな人たちがよく理解できない》というのがありました。おそらくこのことはサークルだけでなく、岐阜大学生の共通の気持ちかもしれないと思えるからです。つまり交流を深めようにも、留学生と知り合うチャンスさえも非常に少ないのが現状であるということではないでしょうか。この点は、今後の国際交流室の活動に一つの課題を投げかけているのだと言えます。

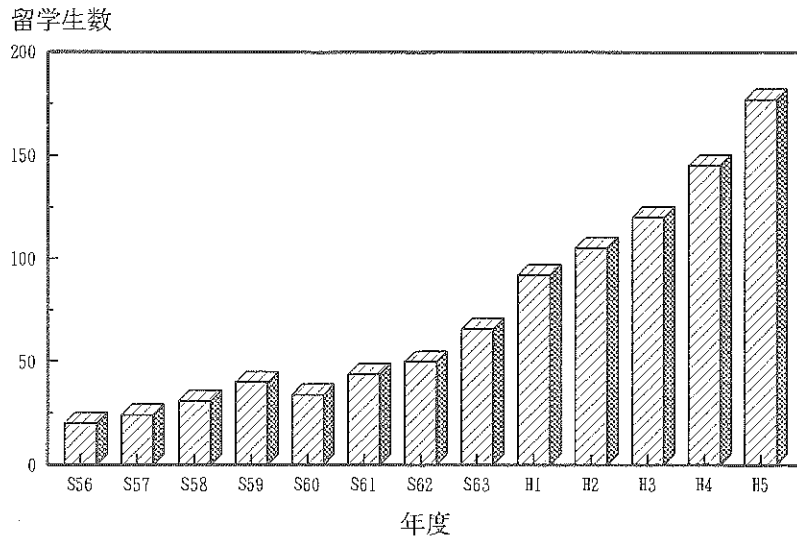


図2. 年度ごとの在籍留学生数

図2に各年度ごとの在学留学生数を示しました。5年ほど前から在学留学生の増加が顕著になり、また、大学院への進学を希望する留学生が増えるにしたいが、平均在籍年数も2年～4年程度へと移りつつあります。在籍期間をとっても、一般の学生とほぼ同じとなりつつあり、留学生にとっても魅力ある岐阜大学でなくてはなりません。折しも日本の国際貢献とか国際的役割とか言う言葉をよく耳にする昨今ですが、「国際交流は身近なところから」をキーワードに、私たちのごく身近にある国際社会をもう一度見直し、なにかできることから始めたいものです。最後に、アンケートに協力して頂いたサークルの方々に紙面を借りてお礼を述べます。

国際交流室 学生担当主任

中谷 剛 (工・土木)

国際交流室とわたし (その1)

国際交流室の事業にはありとあらゆるものがあります。これらの事業を事務的に処理し、円滑に進むようサポートしていくのが、私たちの仕事だと考えています。まず、交流室の業務時間は、午前9時から、午後5時まで (日本語授業は9時から12時30分まで、曜日によっては午後3時までのこともある)。クラスのないときは、留学生がCAI (Computer aided instruction) を使ったり、交流室の図書で勉強したりしています。

ここは、留学生をはじめ、先生方、事務の人々、学生などなど、さまざまな人々と接することが多いので、私自身大変勉強になるところです。ただ、各グループ間の交流が私たちを通じてだけの間接的なものでなく、せっきくのこのチャンスを無駄にすることなく、できるだけ直接接することを留学生は望んでいますし、私たちも望んでいます。

また、ここには日常生活に関する様々な問題も舞い込んできます。それは国際交流室だけではないと思いますが、例えば、学生たちの住まいの問題が挙げられます。毎年10月と4月には、留学生たちはアパート探しに奔走します。その他にも、私たちの力の及ばない多くの問題に取り囲まれています。大学だけでなく学外でも、外国人を受け入れるにあたっての問題は数多く挙げられると思います。学生が本当に今私たちに求めていること、そして、私たちはどこまでそれに応えればいいのか……。

……ということを私は毎日感じながら仕事をしています。

学生課国際交流係事務補佐員 後 藤 桂



国際交流のための奨学寄附金について

本学では、諸外国の大学との間で学術交流協定を締結していますが、それらは5カ国（アメリカ合衆国、ブラジル、中国、スウェーデン及び韓国）11大学（サンディエゴ・ステイト大学、ノーザンケンタッキー大学、カンピーナス大学、浙江大学、広西農業大学、電子科技大学、無錫軽工業学院、浙江医科大学、中国医科大学、ルンド大学、ソウル産業大学）に及びます。

こうした交流大学からの留学生はもとより、世界の20数カ国から180人ほどが留学しており、勉学に邁進しております。

なかでも、国際交流室を昭和59年から設けて、留学生のための日本語や日本事情の講義を実施しており、こうした教育等に対する事業を主に企業等による奨学寄附金で運営しております。

平成4年度は次の企業等から御寄附を賜りましたので、ここに厚くお礼を申し上げるとともに、掲載させていただきました。

- (株)大垣共立銀行 (株)十六銀行 (株)岐阜瓦斯
 (株)大日本土木 財団法人田口福寿会 (株)太平洋工業(株)イビデン (株)岐阜車体 (株)中部電力岐阜支店
 (株)サンメッセ 医療法人東山会長良川病院
 (株)杉山鉄工所 (株)北村バルブ (株)日本耐酸塩工業
 国際ソロプチミスト岐阜 (株)岐阜信用金庫（順不同）

お知らせ

平成5年度岐阜大学国際交流室長、主任及び室員名簿

所 属	氏 名	備 考
農 学 部	堀 内 孝 次	国際交流室長
教育学部	廣 田 則 夫	日本語日本文化教育担当主任
"	佐 藤 昌 宏	ホームステイ担当
医 学 部	加 藤 直 樹	医学部関係担当主任
"	奥 野 正 隆	医学部関係担当
工 学 部	中 谷 剛	学生担当主任
"	坂 本 秀 生	日本事情担当
農 学 部	鈴 木 文 昭	会計・渉外担当
"	金 丸 義 敬	国際理解教育担当
教 養 部	中 須 賀 徳 行	サマースクール担当主任・日本語担当
"	永 井 敦 子	広報担当
工 短 部	松 浦 晃 次	エクスカージョン担当主任
"	武 野 明 義	広報担当
医 療 技 術 短 大 部	瀬 戸 崎 康 子	国際理解教育担当主任



1993年度 前期日本語クラス時間割表（平成5年4月12日～平成5年9月22日）

	月	火	水	木	金
9:00					
1	A I-1 加 藤 B II-① 河 地	A I-3 及 川 B II-③ 後 藤	A I-5 中 島	A I-6 河 地	A I-8 中 島 B II-⑤ 加 藤 C I-2 後 藤
10:30					
10:40	2	A I-2 及 川 B II-② 加 藤 C II-1 河 地	A I-4 後 藤 C I-1 及 川	[言葉の勉強会]	A I-7 中 島 B II-④ 河 地 A I-9 加 藤 B II-⑥ 後 藤
12:10					
13:20	3	D I-1 中 島* (13:00~14:30)	[言葉の勉強会]	D I-2 及 川* (13:00~14:30)	C II-2 加 藤
14:50					
15:00	4	D II-1 及 川* (14:40~16:10)	日本語MEETING	D II-2 後 藤* (14:40~16:10)	
16:40					

後期の時間割については、国際交流室までお問い合わせ下さい。*…医学部クラス 夏休み：7月10日(土)～8月31日(火)

●編集後記●

今号より、室員一年生の二人が NEWSLETTER の編集を担当しております。今まで担当された方々の方針を引き継いで、交流室と大学内外の皆さんとの、率直な意見交換や問題提起の場となるような紙面を作ってゆければと思っています。

「身近な国際交流」の舞台では、私たち大学と地域のひとりひとりが主役です。黒子の腕は未熟ですが、どうぞよろしく願いたします。(永井)

発行 岐阜大学国際交流室

NEWSLETTER 係

〒501-11 岐阜市柳戸1-1

☎(0582) 30-1111

内線2380/2381

FAX 0582-30-1108